

別紙 1

1 環境保全活動に関する方針等

< 環境保全活動に関する方針等 >

【環境方針】

[環境理念]

私たちは、おいしさと品質と安全にこだわり安心できる食品づくりに努めるとともに、地球環境の大切さを十分認識し、環境に配慮した企業活動を通して恵み豊かな地球の存続に貢献します。

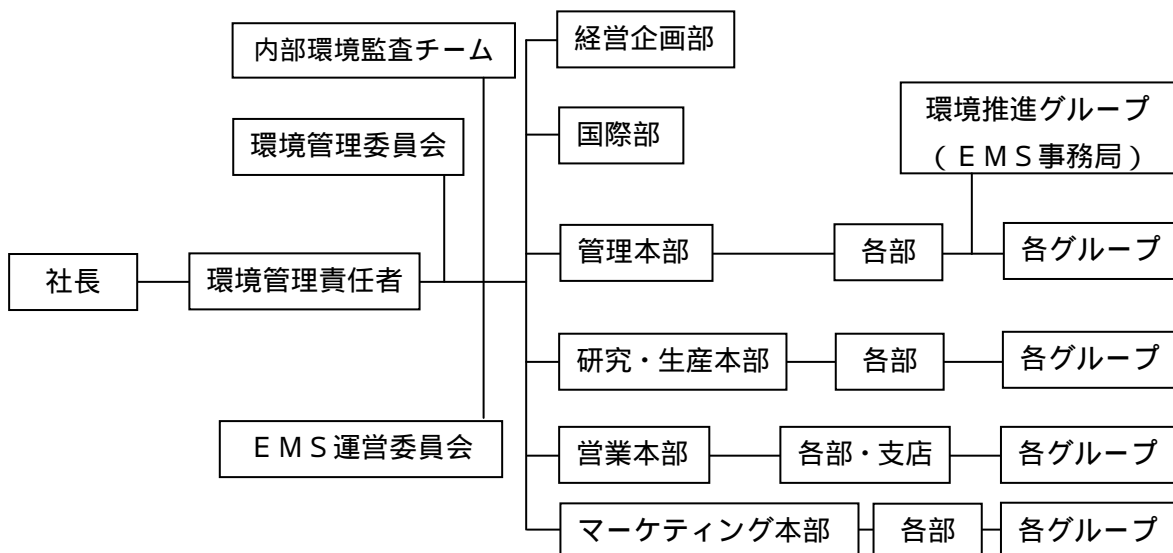
[行動指針]

1. 事業活動全般（調達・生産・物流・販売）について、省エネルギー、省資源、廃棄物の削減・再資源化及び地球温暖化物質等の排出抑制に努め、汚染の予防を推進します。
2. 原料調達から消費に至るまで、各段階で環境に配慮した商品開発に努めます。
3. 環境に関わる法律を遵守するとともに、自主基準を設定し事業活動を行います。
4. 環境目的・目標を定め定期的に見直すことにより、環境活動の継続的改善を図ります。
5. 環境教育を通して環境意識の向上を図り、社員全員が環境活動に積極的に取り組みます。
6. 社内外に必要な環境情報を公開します。（ホームページに掲載）

（目標・計画等の公表の方法についても記載のこと。）

2 推進体制の整備

< 環境保全活動に関する組織体制 >



| 部署名                | 担当内容      |
|--------------------|-----------|
| 管理本部 総務部 環境推進グループ  | 環境関連窓口    |
| 管理本部 SCM部 需給グループ   | 特定荷主の責任   |
| 研究・生産本部 生産部 業務グループ | 省エネ法管理    |
| 研究・生産本部 生産部 工務グループ | 環境測定および届出 |

## 別紙 2

## 3 環境保全活動の実施状況等

| 項目   | 取組結果  | 今後の取組計画<br>(2012年度計画)  |
|--|---|--|
| 1. 原油に換算したエネルギー量を2009年度に対し原単位で2%程度削減する。(各製造グループ)                                 | ・飲料グループは、2009年度比91.6%で目標を達成。<br>・粉体グループは、2009年度比95.6%で目標を達成。  | 1. 原油に換算したエネルギー量を2009年度から原単位で年平均1%削減する。                      |
| 2. 環境マネジメントプログラムの手段、ノー残業デーを月2回実施により原油に換算したエネルギー量を2009年度より2%程度削減する。(製造グループを除く全部署) | ノー残業デー月2回以上実施、空調機の温度設定厳守、昼間の消灯、蛍光灯の間引き等の省エネ活動を実施。<br>伊丹地区全体の原油に換算したエネルギー量は、2009年度比98%で目標を達成した。製造Gを除く全部署でも2009年度比91%で目標を達成した。                        | 2. 原油に換算したエネルギー量を2009年度から総量で年平均1%削減する。                       |
| 3. 輸送方法の効率化の推進。<br>ガソリン、LPGの消費量を2008年度に対し削減する。(燃費改善)                             | ・エコドライブ及び使用を極力減らす取り組みを実施している。<br>・ガソリンは2008年度比70%に減少した。<br>・LPGも2008年度比76%に減少したが、使用しているフォークリフト電気化の影響もある。しかし原油に換算したエネルギー使用量が減少していることから、改善していると考えている。 | 3. 輸送方法の効率化の推進。<br>ガソリン、LPGを2011年度に対して使用量を年平均1%削減、燃費を1%改善する。 |
| 4. 廃棄物量(原材料、製品、飲料廃液)を2008年度より削減する。   | ・廃棄物量は、2008年度比75%に減少し、目標を達成した。  | 4. 廃棄物量(原材料、製品、飲料廃液)を2008年度より削減する。                           |
| 5. 廃棄物の再資源化率99%以上を維持する。  | ・再資源化率は97.9%で若干目標未達であったが、昨年(96.5%)より再資源化率は改善された。  | 5. 廃棄物の再資源化率98%以上を維持する。(2012年度の目標値は現状を考慮し、再資源化率99.98%に変更)    |
| 6. 工場排水負荷(COD負荷量)を2008年度より減少させる。   | ・2008年度より工場排水負荷も減少し目標を達成した。<br>・汚濁防止への継続的な取組み、適切な希釈実施および排水処理設備の導入が負荷低減に繋がっており、排水のBOD、COD値等は安定的に推移した。(基準値を超えることは無かった)<br>(下水道の排水規制値、自主規制値ともに適合)      | 6. 排水負荷を低減させる。   |

|  |  |  |
|--|--|--|
| 7. 製品包装資材の改良を検討し実施する。                          | ・容器の軽量化、ラベルの薄膜化、段ボールケース材質低減等を実施。                         | 7. 環境配慮型の包装資材を積極的に検討し、既存製品の改良及び新製品開発検討を実施する。 |
| 8. 紙使用量を2010年度に対し5%削減する。コピー紙の再生紙使用率99%以上を維持する。 | ・紙使用量は、2010年度比90%で目標を達成。<br>・コピー用紙の再生紙使用率も99.8%で目標を達成した。 | 8. 紙使用量の削減、コピー用紙の再生紙使用率の維持・向上。               |
| 9. 環境マネジメントシステム                                | ・環境マネジメントシステム運用  | 運用の継続的改善を行なう。                                |
| 10. 環境教育                                       | ・内部環境監査員教育の外部教育の実施<br>・各グループ単位の環境教育(年度計画)の実施             | 同左   |
| 11. 地域社会活動への参加                                 | ・事業場周辺の清掃活動(週1回)<br>・全社員による事業場周辺の清掃活動(年2回5月、12月)         | 同左<br>・全社員による事業場周辺の清掃活動(年2回5月、12月)           |